浜岡原発停止から５年

浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）をとめた政治判断から、6 日で 5 年。中部電力は長さ 2 キロを超える防潮堤を今春完成させ、再稼動をめざす。全国の原発停止の発端となった地元周辺では、東京電力福島第一原発事故の風化にも映る動きが出ている。

浜岡は東海地震の想定震源域の真上にあり、近くを東海道新幹線や東名高速が走る。5 年前、民主党政権の首相として停止を求めた菅直人氏は、「事故があった場合の影響が極めて大きい」と話した（記事と写真は朝日新聞 5 月 7 日朝刊）。

中部電力は浜岡原発を取り囲む防潮堤を造った＝静岡県御前崎市、本社ヘリから

5 年前の 2011 年 5 月 21 日、日本科学者会議主催の浜岡原発の現地調査に出かけた。名古屋から東名高速を走って、意外と早く御前崎に着いた。当日はすでに原発は運転中止であったが、厳重な警戒のもと、中電のマイクロバスで構内を回った。撮影も厳しく禁止。その後、「浜岡原子力館」見学、説明へと続いた。中電の担当者は、原発停止から 1 週間ということもあり、ピリピリしていた感じであった。しかし、「浜岡は絶対安全」と自信たっぷりに語っていたのを思い出す。

あれから 5 年。中電は浜岡の 5 つの炉のうち、廃炉を決めた二つの炉を除く 3～5 号機の再稼動をめざす。本間龍「再稼働プロパガンダ　完全復活した原発広告」『世界』2016 年 5 月号に中電の動きがリアルに書かれているので、すこし紹介しよう。

現在もっともメディアへの原発広告への出稿が多いのが、浜岡原発の再稼働を狙っている中部電力である。その突出ぶりは他社に比べて異様なほどで、すでに半年以上前から様々な新聞広告とテレビＣＭを出稿している。また、ＨＰの作り込みも凄い。なかでも目立ったのは、2015 年 8 月から 12 月まで毎月掲載した、浜岡原発で働く社員を登場させた「私は、浜岡原子力発電所で働いています」というカラ―15 段の広告シリーズである。これは 3・11 以前の原発広告でも非常によく見られた、原発の様々な部署で働く人々を取り上げる形式の広告と全く同じで、真剣に働く社員への共感と、原発施設への理解促進という二つの訴求ポイントを持っている。このほか、「女性のエネルギー考」、「点描・エネルギーのかたち」シリーズも展開。

（2016 年 5 月 12 日）